

主題	施設間連携を養う為の所在不明者搜索訓練について		
副題	所在不明者搜索時、より効果的に組織的に搜索が行える取り組みと効果について		
所在不明搜索者訓練		リスクマネジメント	
研究期間	24 ヶ月	事業所	特別養護老人ホーム 清風園
発表者：石川 農（いしかわ みのる）		アドバイザー：吉田 美香（よしだ みか）	
共同研究者：桜井 恵朱（さくらい あやか） 上田 勉（うえだ つとむ）			
電 話	042-735-3000	メール	yoshida.m@san-ikukai.or.jp
FAX	042-734-8933	URL	http://www.san-ikukai.or.jp/seifu-

今回発表の事業所やサービスの紹介	東京都町田市金井7-17-13にある特別養護老人ホーム。昭和39年開園 来年50周年を迎える。2階フロアー・3階フロアーにて110名。SS3名。 デイサービス、グループホーム、訪問看護ステーション、診療所、軽費B型老 人ホーム、ヘルパーステーション等複合施設であり様々な地域のニーズに対応 している。
------------------	--

《1. 研究前の状況と課題》

研究開始前、認知症高齢者が所在不明になる事へのリスク認識が低く、チェック体制や所在不明時の搜索態勢が十分に整備できていなかった。

三年前、近隣の同一法人施設で所在不明事故が発生した際、事業所として所在不明搜索者搜索マニュアルがなかった。また、清風園と近隣の同一法人施設で情報共有、連携体制が整備されていないという点も課題であった。

清風園は地域住民との交流が活発であり、ボランティアや地域住民、面会の家族の方が多く出入りされる。認知症利用者が園外へ出られるリスクも高い環境である。事業所内で事故区分（アクシデント・インシデント《ヒヤリハット》）を明確に整備し、所在不明に対する共通の意識、対策をとる必要があった。

2011年度より事故区分詳細表を整備し、合同不在者訓練の取り組みを開始した。（生活圏外30分以上の無断外出をレベル3に分類）

	2010	2011	2012	2013
Lev3以上	2件	4件	1件	0件

《2. 研究の目標と期待する成果・目的》

- 1 認知症利用者を施設全体で見守り、施設から一人で外出しても事故なく帰園できるシステムの構築。
- 2 所在不明リスクへの共通認識を持つ為、法人内共通の事故区分詳細表を作成し、事故内容を共有する。
- 3 所在不明時に事業所間で連携して搜索を行えるよう法人内共通の搜索マニュアル（日勤用、夜勤用）を整備。
- 4 搜索人数を多くとり、より効果的、組織的に搜索を行えるよう搜索マニュアルに沿った事業所合同訓練の実施。

《3. 具体的な取り組みの内容》

- 1 一人で外に出られる可能性のある認知症高齢者の方への30分毎所在確認の実施。利用者様情報シート（写真の添付、歩行速度、身長、体重、服装等の特徴が分かるもの）を作成し、施設内全部署で見守りを実施。
- 2 事故区分詳細表を作成し、レベル3以上の事故報告書を法人内全施設へ事故速報として送信し、共有。
- 3 安全対策委員会を発足し、所在不明搜索者訓練マニュアルを整備。マニュアルに基づいた所在不明搜索者訓練の実施。
 - ① 利用者の所在が確認できない→
 - ② 搜索本部立ち上げ→
 - ③ 搜索→
 - ④ 家族・関連機関への報告→
 - ⑤ 原因究明・再発防止→
 - ⑥ 行政機関に報告→
 - ⑦ ふり返り・確認一連の動きをフローチャートで明記（日勤帯、夜勤帯、二通り作成）。
- 4 所在不明事故（レベル3）を想定し、事業所内の全部署が参加しての搜索訓練の実施。第二清風園との合同搜索訓練の実施。
- 5 区域別の搜索マップ（徒歩用、車・バイク用）、情報シートを作成。搜索時グループごとに担当マップ区域を搜索。

《4. 取り組みの結果と考察》

- 1 写真（利用者情報シート）の配布により他部署職員も行方不明リスクを把握でき、事前の対応ができる。
- 2 生活歴や行動目標を理解、把握することで外出の事前予測、所在不明時の効果的な搜索方法を検討出来るのではとの考察。
- 3 搜索エリアを限定することで担当区域を重点的に搜索できるが、人員体制上搜索に必要な人員の確保が難しい。

- 4 情報を共有したことでインシデント件数が増加。職員の所在不明に対する認識の高まり、早期に気付き対応することで解決した事例も多い。地域住民が発見した事例もあった。
- 5 所在不明搜索者訓練の実施により、利用者が所在不明になった際に迅速に本部機能を立ち上げ、搜索を行える体制が整えられてきている。しかし、全職員が訓練に参加することは難しく、主体的な役割を果たせない訓練未経験の職員も多い

《5. まとめ、結論》

課題として①夜間帯の搜索手順②緊急連絡網③メールの一斉送信④連絡体制の整備等が挙げられる。

訓練時、本部機能担当者を経験職員へ割り振り、いつ、誰が、どんな時でも迅速に陣頭指揮がとれるよう昼夜問わず、訓練を重ねる必要がある。

《6. 倫理的配慮に関する事項》

本研究発表を行うにあたり、ご本人（ご家族）に口頭にて確認し、本研究発表以外では使用しないこと、それにより不利益を被ることはない事を説明し、回答をもって同意を得たこととした。

《8. 提案と発信》

清風園と地域との交流を今まで以上に図ることで、施設外での（地域全体での）見守り体制を強化する取り組みを検討している。災害・緊急時にも地域との連携が図れるように今後、所在不明搜索者訓練実施の際、地域住民の参加を募っていく。

【メモ欄】